

新型コロナウイルス感染症について (2021年11月14日)

日本では、現在約172万人(全人口の約1.4%)が新型コロナウイルス感染症と診断され、重症化(人工呼吸器等の必要となる)の割合は約1.6%(50歳以下で0.3%、60歳以上で8.5%)、死亡する人の割合は約1.0%(50歳以下で0.06%、60歳以上で5.7%)です。人口当たりの感染者数や死者数は、全世界の平均や主要国と比べて低い水準で推移しています。

重症化しやすいのは、高齢者(30歳代と比べた重症化率は、60歳代で25倍、70歳代で47倍、80歳代で71倍)と基礎疾患(肺や腎臓の慢性疾患、糖尿病や高血圧、心血管疾患、肥満、喫煙等)のある方です。

新型コロナウイルスに感染した人が、他の人に感染させてしまう可能性のある期間は、発症の2日前から発症後7~10日間とされ、特に発症の直前直後でウイルス排出量が多くなります。

感染拡大予防には、1)体調の悪い時は不要・不急の外出を控える、2)人と接する場ではマスクを口と鼻を覆うように着ける(布マスクを感染者が着けると接した人のウイルス吸入量は60~80%減少、感染者と接する人が着けると20~40%減少)、3)外出中は人が触る所に触れず、自分の手で顔を触らない、4)外出後は必ず石鹸で手を洗う(アルコール手指消毒だけではウイルスが完全に死滅しないことあり)、5)人の密集する場所や人との密接を避ける、6)密閉空間では換気する、7)クラスター感染リスクの高い場所に行かない、ことが大切です。

新型コロナウイルスワクチン接種を2回受けることで重症化予防効果が期待できます。しかし、ワクチン接種をしたからといって絶対に感染しないということではありません(発症予防効果は70~95%)し、感染した場合に症状が出ないこともあるので、接種を受けた人でも感染予防対策は必要なのです。

発熱時の医療機関へのかかり方

発熱の症状があり感染症が疑われる場合、他の患者さんと接触しない体制を整えている医療機関もありますが、敷地や建物の構造上の制約で発熱者を受けられない医療機関、透析やがん治療を行う医療機関や産科等では、受診を控えて頂くことがあります。

かかりつけの医療機関がある方は、予め電話等で診療体制を確認して受診頂くようお願いいたします。かかりつけがない場合には、医療機関検索で探して、電話で受診の相談をしてください。※日曜休日昼間当番の医療機関も、事前に電話で受診方法を確認の上、受診をお願いします。

- ◎ 発熱のある方は、医療機関へ行く前に、電話で連絡をお願いします。
- ◎ 医療機関により診療体制は異なります。
 - ① 通常の診療(標榜科)のみを行う医療機関
 - ② 発熱患者さんを他の患者さんと接触しない体制を取り対面で診察する医療機関
 - ③ 発熱患者さんを電話または情報通信機器で診察する医療機関
- ◎ 医療機関へ電話をする前に、できれば以下の点をメモにまとめて話す準備をしてください。
 - かかりつけの場合は、診察券を用意。初めての場合は、年齢、性別なども。
 - ・発熱について：いつから？、何度の発熱？、その後の体温の変化は？
 - ・他の症状の有無：咽頭痛、咳、息苦しさ、全身倦怠感、頭痛、関節痛、嗅覚・味覚異常、鼻汁・鼻閉、下痢、嘔吐など
 - ・接触歴：①通勤、通学、店など立ちより先、②集団感染リスク(直近2週間)、③海外渡航、④その他、思い当たること
 - ・重症化のリスクについて：現在治療中の病気、生活習慣病の既往、その他、妊娠の有無等
- ◎ 来院にあたっての注意
 - ・患者さんも付添の方も全員マスクを着用してください(付添は原則一人で)。
 - ・37.5度以上の発熱者、咳や倦怠感が強い方は、直接院内に入らず、指示に従ってください。(対面診療でも、発熱者と他の方の診察時間帯を分けたり、車や仮設テントで診察するなど、医療機関によって診療体制が異なります。)